自衛隊の現場

あまり知られていないお仕事

潜水医学実験隊 ②

深度４５０㍍の飽和潜水訓練

前月号に引き続き、海上自衛隊潜水医学実験隊を紹介します（編集局）。

深度４５０㍍の飽和潜水訓練の話をしますと、高気圧下の装置内では特異な現象が起こります。まず、人間にとって快適な温度の幅が狭くなります。

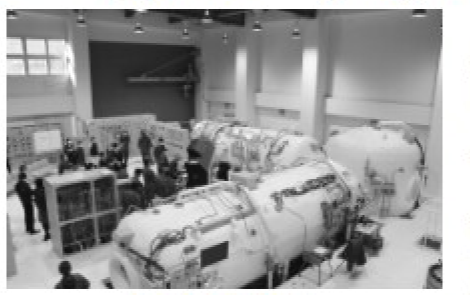
分かりやすく言うと、半袖で暑がっている人の傍には、病気でもないのに毛布に包まって寒がっている人がいる状況で、気温を感じる個人差が大きくなります。皮膚の表面は、水が蒸発しにくいのか、常に湿っており、このような状態で皮膚に傷をつけてしまうと感染症を発症しやすくなります。よって、ひげ剃りは厳禁です。

また、うっかりと鼻毛を抜こうものなら、次の日には鼻が腫れ上がる始末。

生きていくのに必要な呼吸も46気圧の装置内では、５枚くらいマスクをして呼吸をしているような感じになります。目に見えないジェルを飲み込んで呼吸しているような、という人もいます。毎日、シャワーを浴びることができますが、うっかり固い入浴タオルでゴシゴシ洗ってしまうと皮膚が傷つき炎症を起こす危険性があるので、柔らかめのタオルで優しく洗うようにします。

装置の中には6人が入り、言葉を交わしますが装置の中は、外界と少し様子が違います。飽和潜水には、空気中の窒素の代わりにヘリウムガスを使用しますが、装置内で発した声を聴くと、アヒルが発している声のように聞こえます。昔、パーティーグッズで缶に入ったヘリウムガスが売られていましたが、使ったことがある方は想像しやすいかと思います。

会話の流れで話していると会話は成立しますが、急に話しかけられると何を言っているのか判らないこともあります。


深海潜水訓練装置

以上のとおり、高気圧下の生活はいろいろと大変なことも多いですが、他にも狭い中で相手にぶつからないよう気を付けたり、食事のスピードを合わせるなど、互いに気を配っているうちに、仲間との絆はますます強くなります。

最後になりますが、深海での人の生理機能や精神機能に関しては、未知の領域が多々あり、潜水艦救難の際に的確な潜水業務をこなすためには、今後の訓練、研究を欠かすことはできません。

潜医隊の任務や訓練の様子について述べてきましたが、不測事態に即応できるよう、日々の訓練や研究にまい進している潜医隊の職員を思い出していただけると幸いです。

（海上自衛隊潜水医学実験隊　1等海尉　佐古　健二）

各地で自衛官候補生課程修了式

松山（愛媛県）豊川（愛知県）大津（滋賀県）

教育課程を終了し、新ステージへ

約８００人の修了式を各地で挙行

威風堂々とした修了行進

中部方面混成団（中部方面混成団長兼ねて大津駐屯地司令・野崎英二1等陸佐）は6月25日の松山駐屯地を皮切りに、6月28日に豊川駐屯地、6月29日に大津駐屯地において第20期一般陸曹候補生７７５人（男子６４５人、女子１３０人）および自候生25人に対する修了式を、隊員ご家族および部内外来賓を迎え、各駐屯地で挙行しました。

参列した野崎混成団長は「諸君らは、ここ混成団の地を巣立ち自衛官としての新たなステージ、新隊員後期課程に向います。『事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託に応える』この言葉の重さは私も常に心に刻んでいます。わが国の平和と独立を守る自衛隊の使命を全うするため、共に努力して行こう」と激励され、修了生は、各駐屯地から全国各地へ旅立ちました。

善通寺（香川県）高知

自信に満ち溢れた表情で修了式

任官しそれぞれの配置部隊へ

修了証書授与

第14旅団（旅団長・大場剛陸将補）は6月24日に善通寺駐屯地（担任・第15即応機動連隊）、6月25日に高知駐屯地（担任・第50普通科連隊）において「自衛官候補生課程修了式」を挙行しました。

多数の来賓や、ご家族が見守る中、厳かに行われた修了式では、入隊式の際に見せた不安気な表情とは違い、約3カ月の教育を終え自信に満ち溢れた頼もしい表情となった76人の自候生が参加しました。

それぞれの修了式において、第15即応機動連隊長（徳淵文夫1等陸佐）および第50普通科連隊長（山内和也1等陸佐）は、式辞において、自候生の労をねぎらうとともに、今後の活躍を祈念しました。

本教育を修了した自候生は、晴れて2等陸士として任命され、数多くの思い出と同期との強い絆を胸に、それぞれの配置部隊へと旅立って行きました。

東千歳（北海道）

来賓、ご家族の見守る中で修了式

決意を胸に新たな特技課程へ

国歌斉唱する自候生

第11普通科連隊（連隊長・二宮充史1等陸佐）は6月24日に、第7特科連隊（連隊長・万波大介1等陸佐）は6月25日に、東千歳駐屯地において、それぞれ「自衛官候補生課程修了式」を挙行しました。

式は、多数の来賓の方々に参列していただくと共に、隊員のご家族にも出席いただき、3カ月でひと回りもふた回りも逞しく成長した隊員の姿をご覧いただきました。

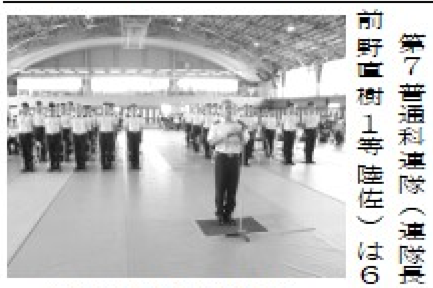
地元新聞社の取材を受けた自候生は「初めての集団生活で慣れないこともあったが、部隊長らの指導で乗り越えられた。災害派遣などで国民を助けられる自衛官になりたい」と決意を力強く話していました。

自衛官候補生課程を修了した42人の新隊員は、各職種に分かれて、それぞれの駐屯地で開始される新隊員特技課程教育に参加し、部隊勤務に必要な特技（専門技術）について習得して一人前の自衛官を目指します。

福知山（京都府）

教育成果を自信に新たな目標に

3カ月で見違えるほど逞しく成長


決意の言葉を述べる自候生

第7普通科連隊（連隊長・前野直樹1等陸佐）は6月25日「自衛官候補生課程修了式」を挙行しました。

大勢の来賓、ご家族に見守られる中、38人が本課程を修了しました。

前野連隊長は式辞で、自候生らに3つの言葉を送り、「本教育の成果を大きな自信として、新たな目標に挑んでもらいたい」と締めくくりました。

最後に、決意の言葉として鎌田自候生が「緑豊かな福知山で学べたことを誇りにし、同期の絆を忘れることなく次の任地でも精一杯頑張ります」と3カ月前とは見違えるほど逞しく成長した姿で、感謝を述べました。

今後は、それぞれの部隊に配置され、より専門的な知識や技能を学びます。

一人前の自衛官として、立派に成長していくことを期待しています。

新町（群馬県）

厳しい訓練を同期一丸となり修了

同期との絆をより深め、切磋琢磨

修了式に臨む自候生

第12後方支援隊（隊長・二見光俊1等陸佐）は6月27日、新町駐屯地体育館において、国会議員、高崎市市議会議員、自衛隊群馬地方協力本部長等、多数の来賓並びに隊員家族の参列の下「自衛官候補生課程修了式」を挙行しました。

自候生は、教育を開始した3カ月前とは見違えるほど凛とした姿で臨み、修了証書授与、旅団長褒賞・教育担任官褒賞授与、告達と続き、根岸自候生（群馬県みどり市出身）が元気良く申告を行いました。

続いて、二見隊長が式辞で自候生の労を労うとともに活躍を祈念すると述べ、来賓の方々からはお祝いと激励の言葉が贈られました。

同期一丸となって乗り越えた19人の自候生は各部隊に配置され後期教育を受けることとなります。

えびの（宮崎県）

一般陸曹候補生課程83人の修了式

成長した姿に感動、涙するご家族

班長と別れを惜しむ隊員

第24普通科連隊（連隊長・大江自治1等陸佐）は6月24日、隊員家族はじめ部外関係者の見守る中、一般陸曹候補生課程83人の修了式を挙行しました。

新隊員を代表して大分県出身籾目直仁2等陸士が答辞の中で「わずか3カ月で見ず知らずの者同士が『同期生』という固い絆で結ばれ、苦しいとき、つらいとき、励まし合い、助け合って頑張ってきました。この友情は一生忘れることはありません」と述べました。

式の終了後、班長との別れを惜しむ隊員、記念撮影等を行い入隊式からの3カ月間で大きく成長した姿に感動し、涙しているご家族もいました。

高田（新潟県）

3カ月間の教育目標を修了

2等陸士に任官し、各地へ旅立ち

凛とした姿を披露

第2普通科連隊（連隊長・小段雄三1等陸佐）は6月24日、高田駐屯地体育館において「自衛官候補生課程修了式」を挙行しました。

修了式には来賓、自候生のご家族など部内外から多数の参列を賜り厳粛に執り行われました。

同期一丸となって切磋琢磨し、約3カ月にわたる自衛官の基礎となる訓練を終え、見違えるように成長した20人の自候生たちは、凛とした姿を家族に披露しました。

和気あいあいとした会食

小段連隊長は「諸君が希望と不安を抱え入隊してから、毎日の努力により、この日を迎えることができたことを大変嬉しく思う。同期と過ごした3カ月間の思い出を胸に各地域で活躍してもらいたい」と自候生たちの門出を祝すとともに「向き不向きよりも前向き」「練習は不可能を可能にする」の2つの言葉を送り、式辞としました。

自候生は、6月28日付で晴れて2等陸士に任命され、さらに専門的な知識・技能の教育を受けるため、北は北海道、南は九州のそれぞれの部隊に旅立ちました。

また第12音楽隊による激励演奏会も実施し修了式に花を添えました。

約3カ月間の厳しい教育訓練を同期一丸となって乗り越えた19人の自衛官候補生は、それぞれの部隊に配置され後期教育を受けることとなります。

青野原（兵庫県）

3カ月間の教育課程修了を祝福

家族に本教育の思い出を語る

修了式の自候生の敬礼

第8高射特科群（群長・栗田千尋1等陸佐）は6月下旬、駐屯地体育館において「自衛官候補生課程修了式」を挙行しました。

式には、防衛協会青野原駐屯地連合会会長はじめ、近隣地区の家族会会長、各防衛協会会長、隊友会支部長、駐屯地OB会の青桜会会長、近隣地区の募集広報事務所長および防衛モニターなどが参列しました。

式辞において栗田群長は「国民の負託に応えられる頼もしい自衛官としての活躍を祈念する」と述べ、約3カ月間の教育課程を終えた自候生を祝福しました。

式後、自候生は家族に対し、満面の笑みで本教育の思い出を語っていました。

都城（宮崎県）

自候生課程を修了し各任地へ

任地の告達に元気な返事

新たな門出と期待を込めて

第43普通科連隊（連隊長・谷雅和1等陸佐）は6月25日、都城駐屯地体育館において、自候生13人の修了式を挙行しました。

式は、ご家族および来賓が見守る中で執り行われ、駐屯地音楽部の演奏に合わせて国歌斉唱から始まり、各自候生にそれぞれの任地が告達されると、自候生たちは曇天の空模様を吹き飛ばす勢いで元気に返事をしました。

続いて、自候生代表・杉本大河候補生の指揮により新たな任地での目標と希望を胸に力強く申告しました。

谷連隊長は式辞で自候生にはなむけの言葉を贈り、自候生代表が答辞を述べ、式は終了しました。

その後、隊員食堂において祝賀会食が行われ、教育隊長（副連隊長・小原2等陸佐）が祝辞を述べ、謝辞として大前照道候補生が決意を述べ、最後は最先任上級曹長（荒牧准陸尉）が万歳三唱を行って会食を終了しました。

行事の全てが終わるころ、自候生たちの門出を祝うかの如く太陽が顔を出し、13人の新たな防人が、都城から誕生しました。

真駒内（北海道）

約３００人が新隊員課程修了

立派に成長した姿を披露

真剣な眼差しで入場する自候生

第１２０教育大隊（大隊長・池田2等陸佐）は、6月29日に自衛官候補生、翌30日に第20期一般陸曹候補生の修了式を真駒内駐屯地において挙行しました。

修了式には、札幌自衛隊家族会会長および隊友会豊平副支部長のほか、真駒内駐屯地司令、道内各地方協力本部長等の陪列をいただくとともに北部方面混成団長の立会の下、新隊員ご家族約４００人が招待されました。

凛然と式に参加した約３００人の自候生は、約3カ月間にわたる新隊員前期教育で立派に成長した雄姿を披露しました。

池田大隊長は式辞の中で「部隊での隊務すべてが訓練であり、率先躬行、自らを鍛錬し、精神的にも肉体的にも、強い陸上自衛官になってもらいたい」と要望しました。

7月1日、新隊員は班長、同期との別れを惜しみつつ、後期教育が行われる道内および道外の各駐屯地へ旅立ちました。

第１２０教育大隊は引き続き、方面管内唯一の教育専任大隊として人材育成に尽力していきます。

信太山（大阪府）

任官し自衛官として新たな一歩

同期の絆を財産に新たな任地へ

国歌斉唱

第37普通科連隊（連隊長・三浦滋1等陸佐）は6月24日、協力諸団体の来賓並びに自候生のご家族のご臨席の下、信太山駐屯地体育館において、「自衛官候補生課程修了式」を挙行しました。

三浦連隊長は、大きく成長した新隊員の勇姿を目の当たりにし、今日までのひた向きな努力に敬意を表すると共に「第37普通科連隊で学んだ成果を存分に活かし、各職種部隊での特技課程教育において、それぞれの職種のプロとして任務を果たせるよう今まで以上に積極的に知識・技能の修得にまい進せよ」と式辞を述べました。

修了証書授与

式典後には祝賀会食が行われ、自候生が久しぶりに家族と再会し、教育間の思い出を楽しそうに語る姿が見られました。

また、会食の最後には第1区隊第2班・廣野将一朗自候生が新隊員を代表し、約3カ月の間、熱意を持って教育に従事した教育隊長以下の基幹要員に対し、感謝の言葉と共に、後期教育への決意を表明しました。

自候生は2等陸士に任官し、前期教育で得た経験と、困難を共に乗り越えてきた同期との絆を一生の財産としてそれぞれの任地に旅立って行きました。

大宮（埼玉県）

全自拳法大会　個人戦の部　優勝

大会連覇を目指し鍛錬

壮年の部　優勝　堀２等陸曹（中央）

6月24日、御殿場市体育館において実施された第17回全自衛隊拳法富士山大会に、第32普通科連隊拳法訓練隊が参加し、堀2等陸曹（1中隊）が見事優勝の栄冠に輝きました。

堀2等陸曹は今回の大会に挑むにあたり「圧倒的な力の差を見せつけて優勝」を目標に日々の訓練にまい進してきました。

今後の抱負として堀2等陸曹は「一戦一戦しっかり勝ちきる」と語りました。

今年度、第32普通科連隊は各地で行われた拳法の大会において、優勝1回、準優勝1回、3位1回の成績を獲得しています。

実力、モチベーションを向上させて今回の大会に臨み、今回の優勝を収めることができました。

今年度もこのまま「大会連覇」を目指し勢いそのままに勝ち抜くことを期待し、引き続き応援していきます。

今年度大会成績

【個人】

日本拳法東日本総合個人選手権大会

準優勝　谷吉宇3等陸曹（3中）

高幡不動尊あじさいまつり奉納日本拳法大会

優　勝　加賀谷3等陸曹（5中）

3　位　瀧澤3等陸曹（重迫）

数字　頭の体操⑯

問題

次の式の□には、同じ数が当てはまります。

□に入る数はいくつですか

$$\left(8\frac{1}{2}-\square\right):\left(7\frac{2}{3}-\square\right)=7:3$$

（解答は、７面に）

（出題・解説：antaka）

※漢字あそびはお休みします。

地獄谷温泉後楽館は
自衛官を応援しています